FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP
Rd,10-Rd,12 OTGmotorsports REPORT

11月28日(Round.10-11) | 天候:晴 | コース:富士スピードウェイ |
11月29日(Round.12) | 天候:晴 | コース:富士スピードウェイ |

FIA-F4 選手権は、国内最多の集客数を誇る SUPER GT の併催レースとして 2015 年からスタート。次世代の有能な若手ドライバーを発掘することなどを目的とした同レースは、F1 鈴鹿グランプリのサポートレースとして特別戦が組まれたこともあり、本来のスケジュールならば今季も F1 グランプリの前座でレースが実施される予定だった。

だが、3 月から蔓延した新型コロナウイルスの影響で、SUPER GT の開幕は 7 月にずれ込んだ。第 4 戦までが無観客で実施されたことによって併催レースも中止となり、FIA-F4 選手権は 10 月にようやく開幕を迎えた。今シーズンのスケジュールは 4 大会 12 戦と大幅にスケジュールが変更され、これまでは 7 大会 14 戦で競われていたので、1 大会あたりの重みが増したことになる。

今季の OTG motorsports のチーム体制は 80 号車に伊東黎明選手が乗っていて、1 台でシーズンを戦うことになった。伊東選手は FIA-F4 選手権が独自に設けているスカラシップ制度「FIA F4 JAPANESE CHALLENGE」の 4 代目ドライバー。幼少期からカートを始め、昨年からフォーミュラレースにステップアップし、今季は FIA-F4 選手権を主戦場としている。

伊東選手は参戦 1 年目だが 3 大会の 9 戦すべてでポイントを獲得していて、ポイントランキング 5 位とルーキー最上位となっている。第 4 大会第 10 戦ー第 12 戦の舞台は開幕戦と同じ富士スピードウェイで、予選と第 10 戦、第 11 戦が 11 月 28 日（土）。第 12 戦が 29 日（日）に開催された

＜予選＞
予選は 28 日（土）の 8 時 15 分にスタートした。11 月下旬の早朝ということで路面温度は 10℃を切っていて、伊東選手はより入念にウォームアップを行なう。計測 4 周目から徐々にタイムアップを果たし、6 周目には 1 分 45 秒 946 をマークしタイミングモニターの最上位に伊東選手の名前が表示される。富士スピードウェイはスリップストリームが効くため、アタックの位置取りがキモとなる。他の選手が伊東選手のタイムを更新していくなかで、計測 12 周目に最適なポジションを取りセクター 1 で全体ベスト、セクター 2 で自己ベストタイムをマークする。だが、運悪くセクター 3 に入ったところで赤旗が提示されてセッション中断となってしまう。再開後にもアタックしたが残り時間が短く、ベストタイムを 1 分 45 秒 941 とわずかに伸しただけで終了した。結果としてベストタイムでグリッドが決まる第 10 戦は 8 位、セカンドベストタイムでグリッドが決まる第 11 戦は 4 位となった。

＜第 10 戦＞
8 番手からスタートした伊東選手は 1 コーナーまでに 1 台をパス。しかし、コース後半の 13 コーナーの混戦でコース外に押し出されて 12 番手まで順位を落とす。それでも、2 周目のダンロップコーナーで 5 番手争いをしていた 4 台がクラッシュ。この混乱で伊東選手は 7 番手に復帰する。クラッシュの影響で 4 周目終了までセーフティカーランとなり、その後リスタート。7 番手から上位を狙った伊東選手は､1 台をパスして 6 番手で 6 周目に入る。ホームストレートで 1 台をかわして 1 コーナーに入るが、前を走っていた 2 台が想像より手前でブレーキングを開始し、それを避けるために伊東選手は 1 コーナーのイン側にマシンを進める。だが、止りきれずに前のマシンを巻き込んでクラッシュ。スピンを喫した伊東選手は、21 番手まで順位を落としてしまう。その後は、先行するマシンを抜いて 14 周目に 14 位でフィニッシュ。だが、6 周目のクラッシュが他車への接触行為と判断され、50 秒のタイム加算のペナルティを与えられた。結果として第 12 戦は 25 位となった。

＜第 11 戦＞
初のノーポイントレースとなった第 10 戦から約 3 時間のインターバルを経て第 11 戦が行なわれた。4 番手からスタートした伊藤選手はポジションを守ったまま 1 周目のコントロールラインを通過する。トップ 2 台は逃げるが、3 番手以降が集団となり 2 周目のホームストレートで伊東選手は 5 番手に後退。3 番手争いは続き、5 周目のホームストレートで伊東選手は 4 番手に復帰する。6 周目には自己ベストタイムの 1 分 45 秒 560 をマークし 3 番手とのタイム差を削っていく。3 番手のマシンと伊東選手は 0.5 秒程度のギャップで走り、テールトゥノーズに迫れない。セクター 1 と 2 は伊東選手、セクター 3 は 3 番手の選手が速く、終盤まで拮抗した展開が続く。最後までパッシングの機会を狙ったが、抜くタイミングは訪れず 14 周目に 4 位でフィニッシュした。

＜第 12 戦＞
シーズンを締めくくる第 12 戦は 29 日(日)の 8 時からスタートした。スターティンググリッドは第 10 戦のベストラップ順のグリッドで、伊東選手は 5 番手となった。スタートから 1 コーナーまでを 5 番手で通過すると、コカ･コーラコーナーで 1 台をパスして 4 番手となる。早めに仕掛けたかったという伊東選手は、2 周目の 1 コーナーで 3 番手に浮上し、シリーズチャンピオンを獲得した 2 番手の平良選手を追った。2 台のラップタイムはほとんど同じで、第 11 戦と同様にセクター 1 と 2 は伊東選手、セクター 3 は平良選手が有利な展開。序盤は 1 分 46 秒台で周回していた伊東選手だが、中盤以降はペースを上げていき 9 周目には自己ベストタイムの 1 分 45 秒 814 をマークする。伊東選手はダンロップコーナーの進入などで平良選手にプレッシャーを掛けるが、パッシングには至らない。終盤になると 4 番手の選手がテールトゥノーズで迫るようになり、伊東選手はポジションキープを図り 14 周目に 3 位でチェッカーを受けた。伊東選手は最終戦で初の表彰台を獲得し、ルーキーイヤーをポイントランキング 5 位で終えた。

伊東黎明選手

練習走行の走り出しはいつもと同様のポジションでした。金曜日（11 月 27 日）は、それまでと異なるセットアップを試しましたが上手くいかず、予選では木曜日以前の状態に戻しました。予選では速さを持っていたと思いますが、ポジション取りや赤旗のタイミングなど運が味方に付けることができませんでした。第 10 戦は 1 周目の混乱で順位を落としましたがすぐに挽回ができ、セーフティカー導入後のリスタートも決まりました。ですが、翌周の 1 コーナーで前のマシンを巻き込むクラッシュを引き起こしてしまいました。引き際を間違ったとも思っていて未熟さが露呈してしまい、迷惑を掛けてしまいました。第 11 戦は気持ちを切り替えて挑み、結果は 4 位でした。中盤から表彰台を狙ったのですが、先行しているマシンと得意なセクターが異なり、プレッシャーを掛けることができませんでした。第 12 戦は序盤に勝負を仕掛けたいと思っていて、その通りに 3 番手まで上げられました。2 位も狙えたはずですが、あと一歩の速さが足りませんでした。

シーズンを振り返ると、ルーキー最上位で終えられたことは良かったです。ただ表彰台が 1 回だけで、内容を考えるとあと何回かは登れていたかもしれません。短いシーズンでしたが多くの応援ありがとうございました。